

市立大学検討の『今』

市民と共に考える、大学

前号では、大学の目的や運営のリスクなどを説明しました。今回は視点を少し変えて、人口減少が進んだ将来の北上市において大学がどのような役割を果たすのかを考えてみましょう。

人口減少は既に始まっている

日本は今、急速な人口減少に直面しています。本市も例外ではありません。2050年には市の総人口が約7万2千人まで減少すると推計されています。労働人口が減少し、労働力が減少すれば、企業活動の低下や地域経済の縮小につながります。その結果、税収や個人所得の減少などにも影響が及ぶことが考えられます。このような将来に向け、対策を講じなければ、地域産業や市民生活への影響が大きくなることが予想されます。

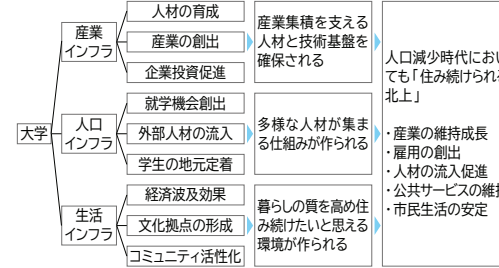
市民の生活はどうなるのか

人口減少による暮らしへの影響は、多方面に及びます。今は当たり前に利用している商業施設や医療機関の撤退、バス路線の廃止や公共施設の統廃合など「生活の不便さ」が増えていきます。また、公共サービスの維持に必要な費用が不足し、公共サービスの低下や手数料、利用料の値上げなど皆さんの負担がさらに増加する可能性があります。人口減少は、ある日突然社会を変えるものではありません。しかし気付いたときには「暮らしの選択肢が減っていた」という形で、私たちの生活に変化をもたらします。

では、どうすればよいのか

人口減少時代においても「住み続けられる北上」であるためには、産業と雇用という本市の強みを生かしていくことが必要です。本市は東北有数の産業集積地です。この強みを将来にわたって維持するには、企業を支える人材の育成と技術基盤の確保が不可欠です。それを実現するのが、本市が目指す「地域産業と密接に連携した大学」【注】です。大学を核として人材育成や技術開発を進めることで、地域産業の維持や発展につなげ、将来の北上市を支える力を育ていくことを目指しています。

■大学の役割と地域にもたらす効果



【注】本市の大学が目指すのは、地域産業と強く連携した工学系の単科大学です。

【高度技術人材の地元育成】

企業が求める電気電子・機械・情報系人材を地元で育てます。

【産学連携による技術革新】

半導体・ロボティクス・AIなどの研究拠点を形成します。

【企業誘致・投資の決定要因】

大学の有無は、企業立地や投資判断の重要要素となります。

【産業構造転換の推進】

大学は、工業都市としての知的基盤になります。

※モデルケースとして注視している、本市と同じ人口規模で「ものづくりのまち」である新潟県の三条市立大学（令和3年4月開学）では、190社以上の地元企業と学生が連携し、実践的な教育研究が行われています。

大学が地域にもたらす効果

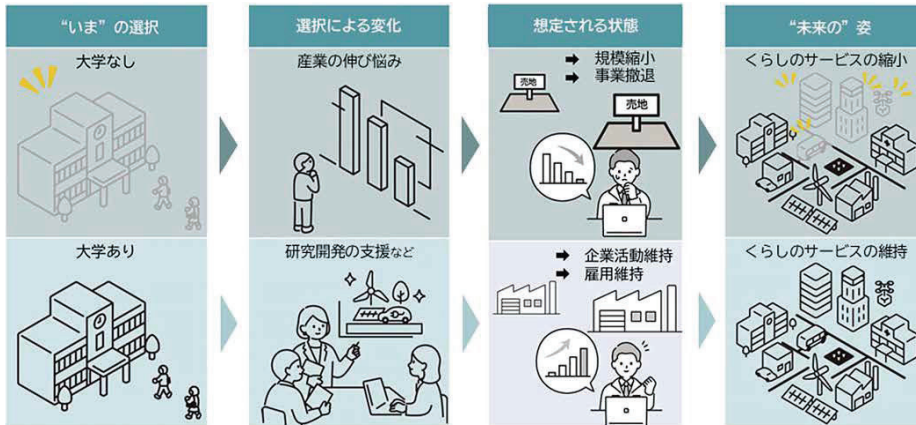
大学が研究開発を支援して、地域産業が活発になれば、税収の確保につながります。その税収は、医療や福祉、教育、道路整備など、市民生活を支えるさまざまな公共サービスの財源となります。また、地域産業や生活など幅広い分野に波及効果をもたらす「多機能インフラ」としての役割を担います。

次回予告

第4回は、市民ワークショップの様子についてお知らせします。

■問い合わせ…政策企画課 ☎0197-72-8229

未来のために今できること - 大学のある未来と大学のない未来 -



大学は未来を創るための選択

本市は今、大きな岐路に立っています。これまでの製造業を中心とした産業集積を強みに発展してきましたが、今後地域経済の縮小や、公共サービスの維持など、人口減少に伴うさまざまな課題への対応が求められます。しかし、打つ手が無いわけではありません。

その一つが「大学の設置」です。設置には、整備費用負担や学生確保といった課題もあり、その都度解決に向けて取り組んでいく必要があります。

その一方で、何も手を打たないことにもリスクがあります。地域産業の担い手不足に加えて、技術革新が進まなければ、企業活動の縮小や税収の減少につながり、結果として皆さんの暮らしが今よりも不便になったり、負担が増えたりしてしまうかもしれません。

市が大学を検討しているのは、大学をつくること自体が目的ではありません。人口減少が進む時代においても、皆さんが安心して住み続けられる北上市を実現するための手段の一つとして考えているからです。

大事なことは、「大学を設置すべきか否か」だけではありません。「大学を設置しないことで、将来の北上市から何が失われるのか」という視点から未来を考えることも必要です。

大学は、北上市の未来を創るための選択枝と成り得るのです。

「学びからまちの未来を考える」講演会を開催します！

北上市立工科大学（仮称）の設置検討に当たり、令和3年4月に新しく開学した三条市立大学の学長をお招きし、地方都市における大学の役割などについて講演いただきます。

■とき…8月29日(土)10時～12時

■ところ…日本現代詩歌文学館講堂

■内容…特別講演「地域大学がまちを変える 地方創生の新しい主役としての大学」

■定員…200人程度

■講師略歴…バングラデシュ生まれ。専門は応用システムバイオメディカル工学。2000年に東京電機大学で博士号を取得。同大学共同研究センター専任講師を経て、2003年から新潟産業大学助教授。2015年から沖縄科学技術大学院大学技術開発イノベーションセンターの技術開発スペシャリストを務めた後、2019年から三条市で大学の設立プロジェクトをリード。2021年4月より現職。



三条市立大学
学長 アハメド ジャハリアル 氏